



大西脳神経外科病院だより 第21号

ぶれいん

発行日:平成22年2月吉日

発行人:学術図書委員会

発行責任者:大西 英之

編集責任者:吉野 孝広

大西脳神経外科病院の理念

生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する。

大西脳神経外科病院の基本方針

生命と人権を尊重した医療を実践する。

神経疾患の専門的・高度医療を実践する。

常に新しい医学の修得に励む。

救急医療は医療の原点と考え、24時間対応する。

地域の医療機関との連携を密にし、地域協力型の医療を志向する

「原点を見つめなおす」

医療法人社団 英明会 大西脳神経外科病院 理事長・院長 大西 英之

あけましておめでとうございます。

今年は当院が開院10年を迎えますので、これまでの10年間を総括し礎とすると共に、次の10年のステップアップに繋げる重要な年であると認識しています。皆さま今年もよろしくお願いたします。

さて、新年を迎えるに当たり、これまでの10年を原点に戻りこの病院を作った理由や我々の病院の存在意義を再考してみました。東播磨地域での脳神経外科医療を支えるという大きな使命があるのは当然ですが、私が開院当時から追いつけてきたものは「患者さんに優しい病院」でした。これについては入院、外来、手術の症例数を見てもわかるように地域の方々からの信頼は得られていると自負しています。しかし、これだけで終わることなく今年はさらに次の2つの点で優しい病院づくりを行っていくと考えています。

まず1つは、働いている職員にもう一度目を向けようという事です。これまで我武者羅に医療技術の向上、システムの充実を行ってきました。職員の負担も感じてはいましたが、まずは患者様へ目を向けること

を最優先としてきました。少しゆとりも出来、今後はさらに足元を固めるため「職員に優しい病院」を原点に戻り皆様と共に考えていきたいと思っております。

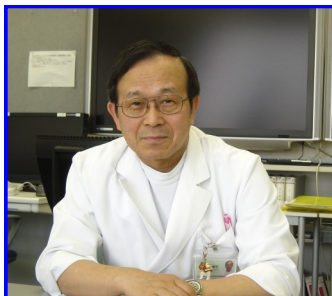
もう1つ考えていきたいのが環境問題です。地球温暖化、CO₂削減等、地球環境を守ることは人類の命題です。大袈裟なことではなく一企業として当院が可能な環境問題への取り組みを行っていければと思っております。職員の皆さまには「地球に優しい病院」を毎日の行動に反映して頂きたいと思っております。

今年は総括する年であるとともに「患者さんに優しい病院」「職員に優しい病院」「地球に優しい病院」この3つのテーマで取り組んでいきます。医療経済も非常に厳しい昨今、問題解決の為にどうアクションを起こすのか、我々の病院は何をすべきかを考えなくてはなりません。非常に大変な年になるかと思いますが、我々の病院の未来は明るいものであると確信しています。そのためにも職員一同一致団結し、明日の十年に向かって進んでいきましょう。



輝かしい第一ステージの締めくくりを

副院長 埴本 勝司



あけましておめでとうございます。昨年はIT本格稼働の年でありましたが、同時に病院機能評価Ver.6受審の年に当たり、これまで以上に多忙な一年でした。2010年も医療界にとっては波乱含みの幕開けですが、当院はこれまで順調な発展を遂げ、今年で開院10年目を迎えました。これまでの第一ステージは創生～基礎作りの期間といえましょう。発展・躍進の期間といえる第二ステージへうまく繋いでゆく意味に於いても、今年

はこの10年を締めくくる重要な一年ですので、内からきちんと総括すべく微力ながら役割を果たす決意です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

発展・躍進の期間
といえる第二
ステージへ副院長の
力は必要です

当院の「ぶれいん」
に今年の抱負を聞いて
みました。



2010を迎えて

副院長 久我 純弘



今年が開院10年目の年である。私自身は当院に勤めだしてから4年で4年になる。開院当初から勤務していた訳ではないので、10年という実感がないが、それでもゼロから始めて、10年で地域に対する貢献だけでなく、国内でも有数の脳神経外科病院にまで発展させた院長をはじめとする諸先輩方には敬服する思いである。さて、昨年は一昨年末に始まった電子カルテの実際の運用に加え、機能評価とマニュアル社会に若干疲れた感があったので、今年、明るさと元気を取り戻せる年になればと思う次第である。

明るさと元気
を取り戻す年
にしましょう

「今」を見つめ直し、基礎固めの一年に

看護部長 上原 かおる

あけましておめでとうございます。昨年は、4月に看護部長交代、6月にSCU増床、11月に病院機能評価更新審査と忙しく瞬く間に過ぎた一年でした。そのような中、病院機能評価においては師長・副師長・主任が中心となって計画的に準備を進めることができ、改めて看護部の組織力を実感しました。

今年、開院10年目の節目の年で

す。ここで一度、病院及び看護部の「今」を見つめ直し、更なる飛躍を目指して「看護」、「看護体制」、「教育」、「医療安全」について再度基礎固めをする一年にしたいと考えています。また、4月には診療報酬の改定や保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部改正による「新人看護職の卒後臨床研修」の努力義務化が施行されます。変化の激しい時代ですので、情報をいち早くキャッチしてどのような情勢にも柔軟に対応していきたいと思いを。

今年も皆様のご協力をいただきながら、何事にも前向きに取り組み努力して参りますので、何卒よろしくお願いいたします。



「看護」「看護体制」「教育」「医療安全」について基礎固めをする一年に!!



2010年の抱負

副看護部長 木村 ひとみ



新年明けましておめでとうございます。昨年は病院機能評価を受審し、スタッフ一同でマニュアルの見直しを行うなど日々の業務を整備することが出来、意義のある年でした。2010年は開院10周年という節目を迎えます。改めて10年間を振り返り、今年は未来に向かって何をすべきか果たす役割について考えてみました。これからは組織内での垣根をなくして、お互い協力しながら質の高い医療を提供出来るように努力したいと思えます。外来におきましては、看護師・クラークの教育を充実させ、専門的知識を

深め、患者さまへの検査や手術の説明をスキルアップさせたいと思います。そのことが、今問題となっている医師の負担軽減対策に繋がるのではないかと考えます。2010年が充実し患者さまにも職員にもやさしい職場作りを目指します。今年もよろしくお願いいたします。



患者さまへの検査や手術の説明をスキルアップしていきます。

ONC decade



「10」という数

事務部長 岡田 惇也

今年は当院開設10周年である。そこで「10」に関する話を。10は切りのいい数字ですが、東西とも決して“吉数”ではありませんし、12ほど便利な数とも思われていません。指の数に合わせて10進法ができたと言いますが、むしろ一番役立ったのは、1と0を並べて書くというアイデアだったと思います。これで10倍すると100、10で割ると1となり非常に便利になりました。漢字の十では十進法の利点を生かせていません。こんな発想の余地はもうこの世に残っていないでしょうか。



ゆっくり頑張ろう!!

薬剤部長 吉田 善子



あけましておめでとうございます。この数年の間にDPC導入、電子カルテの稼働、病院機能評価機構認定の更新(受審)と大きなイベントを終え、今、新しい年を迎えほっとしているところです。本当に無我夢中で後ろを振り返ることもなくあっという間に時が流れた様な気がします。薬剤師も4.5名から7名と増員され、以前の手書き・手作業で超多忙を極めていた業務も電子カルテの稼働と共に全てオーダリングになり、薬剤管理指導内容もパソコン入

力することにより電子カルテから閲覧出来るようになりました。便利が不便であることでもあります。機械に振り回されることなく今年は若い薬剤師と共に専門知識の向上を目指して行けたらと思っています。



機械に振り回されることなく専門知識の向上を目指して行けたらと思っています。

医事課のお仕事

医事課長 藤井 健



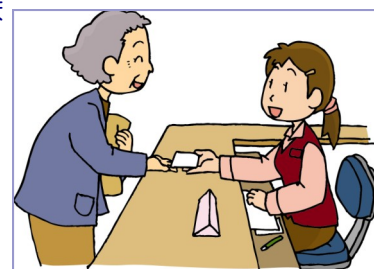
医事課の朝は、患者様へのご挨拶に始まります。受付カウンターにスタッフが横一線に整列し、私の発声に他のスタッフが続きます。その時の患者様の反応は、スタッフのひそかな楽しみでもあります。「何事か？」という驚きの表情から、照れて目線を逸らされる患者様、中には笑顔で口上を聴いて、拍手までして下さる患者様もいらっしゃいました。

これまでの病院勤務では未経験のため、「朝の一斉挨拶」には戸惑いながらも、今では私にとって“楽しみな”重要行事となっています。

「挨拶は心のウォーミングアップ」と、社会人になりたての頃に教えてもらったことが今でもコミュニケーションの基礎になり、心を込めた挨拶は、相手の心を温かくするとともに、挨拶をした者の心をも温かくしてくれます。私たち医事課は、単なる病院事務の領域に止まることなく、まず玄関で傷病のために心身ともに痛められている患者様を温かくお迎えし、専門職の方々の高い技術によって傷病とともに心を癒される患者様が、癒されたお気持ちのまま病院を後にされるようにフォローさせていただくという重要な役割を担っています。年初にあたり、基本に立ち返ってそうした役割を強く意識するよう、スタッフ全員で努めています。

そうは言っても、今年は診療報酬改訂の年でもあり、医療の質を向上させつつ、病院経営の維持・発展に資するために、早めに必要な情報を掴んで具体的な提案をしていくことが、病院医事課の最も重要な業務のひとつです。救急医療への評価を厚くするなど、10年ぶりのプラス改訂になる予定ですが、一方でDPC病院に適用されている調整係数の段階的廃止と新たな機能評価係数への移行が進められることになっており、手放して歓迎とはいきません。新たな係数の根拠とされる項目の中に、DPC病院として提出を求められるデータの「正確性」があり、医事課と診療情報管理室の本領が問われるところです。

現在、診療情報管理室と医事課には、「診療情報管理士」資格を持つスタッフが3名、今年受験予定が1名、新たに教育課程に参加する者が3名います。今後は全員が（自主的に）この資格を取得し、診療情報管理について体系的に理解を深め、特に入院における病名選択の場面ではより正確な情報を医師に提供できるよう、スタッフの能力を底上げしていきたいというのが、年頭に当たっての医事課の展望です。ご指導のほどお願い申し上げます。



★ 医事課の業務内容 ★

外来係は、現在7名で、受付窓口対応・診療費の計算・会計など6つのポジションに分かれて、午前・午後でローテーションしながら、各業務に就いています。それぞれが、責任を持って業務に就くということと、自分の業務だけではなく、全員が他の業務のフォローにも入ることができるということを目指し、チームワーク良く業務を進めています。まだまだ目標に達していませんが、今後も明るく、元気に活気のある医事課外来を目指して、頑張っていきます。



入院係は、現在3名で、2つの病棟に担当者を配置して業務を行っています。多い時には1日約20名の入退院患者様があり、多忙を極める時もありますが、患者様をお待たせすることなく、入力間違いのないよう細心の注意をはらいながら日々業務を行っています。

主な業務内容として、入院手続きのご案内から入院中の治療費に関する計算、保険や提出書類等の確認、その他治療費に関するご相談、各保険者への請求等を行っています。また、各種生命保険の診断書といった書類の受付窓口となっており、医師と患者様への取次も行っています。DPCという仕組みの中で行われる診療行為を、正格に請求に結び付けられるよう、常に研究心を持って取り組んで参ります。

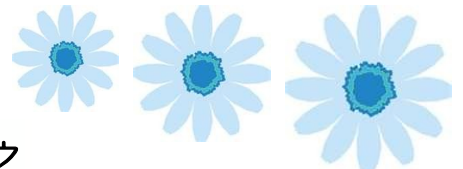
「行動と反省」

3階病棟 主任 山中 弘子



昨年までは「主任一年目、まずは見せてください。」と、いい歳をして甘え放題だったのが、今年はそうはいかない。病院機能評価を通して、いやでも自分の役割の輪郭を見てしまったようにも思う。成長に必要と言われる「行動と反省」まずは自分の足跡を残すこと、そしてその足跡を振り返りながら

次へ進むこと、この地道な繰り返しを出来るだけ多く行う事、これが今年の抱負だと思う。そしていつも優しく支えて下さるスタッフへの感謝を忘れないことも大切な目標に置きたい。



YES / CAN

3階病棟 看護師 柴野 嘉之

気がつけば大西脳神経外科病院に入職して早3年です。徐々に多くの役割を担わせてもらえるようになりました。昨年度は脳神経外科学会の演者や教育委員、プリセプター、リーダー業務などを担当させて頂きました。個人的には第一子が誕生し、働く理由が大きく増えました。今までは我武者羅に働いてきましたが、やっと急性期医療の中の看護の役割が見えるようになってきたと思います。

2010年は患者様を中心とした医療の中の看護を見つめなおし、看護師として更に成長していきたいと思います。YES / CAN !



今年の抱負

2階病棟 主任 木田 純子



明けましておめでとうございます。

今年の抱負としては、自分自身がキャリアアップできるように、勉強していきたく思います。今年で教育委員として4年目です。スタッフ一人ひとりが疾患に対して知識を得ることは当然ですが、看護師として患者さまをどれだけ看ることが出来るか、見たことをどのように看護につなげていき、チームでかかわれるようにチームナースングをしていけるか、サポートしていきたく思います。



ゆとりを持って

2階病棟 看護師 三輪 香織

あけましておめでとうございます。

今年も どうぞよろしく申し上げます。2009年の4月より、2階病棟で頑張らせて頂くようになり、当初より『?』ばかりで、先輩方に御指導して頂く事で、日々の業務を今日まで頑張ってきたことが出来たと思います。また、患者様の優しい言葉や笑顔が、私のエネルギーになることも多かったように思います。

2010年は、1つ1つのケアに根拠づけし個別性ある看護が出来るように、また患者様に笑顔で関わり楽しく仕事をしたいと思っています。もちろん、趣味も楽しみます(^-*)よって、今年は『ゆとり』を自身に持ちたいと思っています。



各階の看護師さんたちに今年の抱負など聞いてみました。

自己研鑽を

外来・オパ室 看護師 大原 桃恵

今年の目標は脳神経外科病院を受診されている患者様の特徴を知り、細かいところにきちんと配慮していくことです。具体的には気分不快や頭痛の増強、めまいを訴える方には緊急性を判断し必要に応じて優先順位を決めたり、声かけを行って患者様の気持ちに寄り添って不安を解消できるような関わりをしていきたいと思っています。

そのためにも表情の観察や話の内容を傾聴していき情報を経験豊かな先輩方と一緒に共有し実践していきたいと思っています。まだまだ気付いていない点が多く教えて頂いて初めて解るという事が多いのですが、自己研さんしていきたいと思っていますので今年もどうぞよろしくお願いいたします。

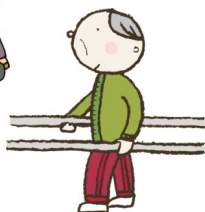


今年は！

作業療法士 荒田 大輔



あけまし手おめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。当院に作業療法が開始して三年、私自信、作業療法士の資格を取得して三年。次は四年目です。石の上にも三年ではないですけど、少しばかりは基盤が温まってきたのかなと思います。周りが見えないような経験年数でもなくなりましたし、今年は実習生の指導にもあたることになっています。研究や勉強会など新しいことをやっていき、後輩からもケツを蹴られないよう頑張っていきたいと思っています。



清く正しく誠実に

管理栄養士 山本 美紗

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。今年も患者様に楽しみにしてもらえようようなおいしい食事づくりを心がけようと思います。個人的には、いろんなことに楽しんで前向きに挑戦していきたいです。毎年、学生のころに言われた「清く正しく誠実に」という言葉を目指しています。どんな時でも笑顔で余裕を持って頑張ります。



今年は「レベルアップを！」

ITシステム管理室 副室長 中田 隆司

平成20年10月に稼働した電子カルテも2年目になり問合せやトラブルもある程度落ち着いてきたように思われます。私は元々コンピュータシステムの設計や作成、いわゆるシステムエンジニア（SE）を行っていました。当院にお世話になってからSEの腕を発揮する機会がなく他人が作ったシステムの管理を日々行っています。他人のシステムを管理するというのは非常に厄介で各部署から「使いにくい」「変えてほしい」等の要望を聞きそれを開発元に伝えて催促するだけで何もできない歯がゆさがあります。その要望を少しでも実現するために電子カルテでは不足している部分を院内開発して、「これはいい物を作ったな」と言われる事を目標にしたいと考えます。今年は「レベルアップを！」



新しい人も古い人も
一丸となって病院を
盛り上げていきま
しょう!!



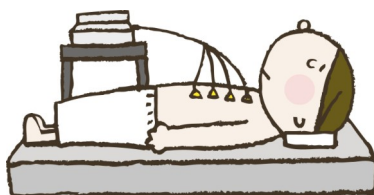
笑顔の対応を

臨床検査科 臨床検査技師

黒北 恵津子

2010年という新しい年を迎えました。去年、新人として入職し充実した毎日があったという間に過ぎていきました。その中で患者様との接し方、対応の一つ一つが本当に大切なのだとことを実感しました。つつい日々の検査に追われて気持ちに余裕がなくなりがちですが、患者様一人一人に気持ちよく検査を受けて頂けるよう丁寧に、かつ笑顔の対応を忘れないように

したいです。また、患者様にとって長く感じる待ち時間、検査時間の短縮も意識し、より正確にスムーズに検査業務を行えるよう日々努力していきたいと思えます。



今年の抱負

地域医療連携室

主任 尾崎 久美子

あけましておめでとうございます。日々の忙しさに、あっという間に時間が過ぎ、地域医療連携室に配属となってから、早3年がたちました。まだまだ学ぶことがたくさんあり、力不足の私ですが、不安や苦痛を持ちながら一生懸命病院にいられている患者様や家族の方に、出来るだけ安心して帰っていたできるようにお手伝いをさせていただきたいと思えます。本年もよろしくお願ひします。

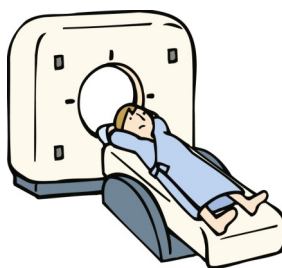


知識の幅を広げたい

放射線科 診療放射線技師

矢野 誠人

昨年四月に診療放射線技師として就職して早一年、先輩たちの足を引っ張りながらも何とか一通りの仕事をこなせるようになりました。今年は、より失敗無く、応用を利かせて検査が出来るようにしていきたいと思えます。知識の幅を広げるため、勉強会などにも積極的に参加していくつもりです。今年も一年、よろしくお願ひ致します。



総務課の一員として

総務課

香山 淳吉

明けましておめでとうございます。私が当院に勤め始めてから1年が経ちましたが、総務課の仕事とは本当に幅が広いなあと現在でも日々感じています。各種消耗品の在庫管理、施設の保守管理から入金率の算定やキャッシュ・フローの把握まで様々です。こうした仕事の中では直接患者様やそのご家族にお会いする機会は少ないのですが、だからこそ今の私にできること、しなければならないことは「医療従事者の方々が安心して働くことができ、さらには満足を得ら

れるような環境を整備すること」だと考えています。「総務課の顧客は職員の方々、それを念頭において職務に当たらなければならない」とはある先輩職員の言葉ですが、その言葉を胸に今年1年職務に当たりたいと思えます。

相変わらず頼りなく不甲斐ない私ですが、本年も何卒宜しくお願ひ申し上げます。



禁煙しま専科

経済的にも身体にも問題は大きい、わかってはいるものの・・・

1. 喫煙病患者

神々の時代から神聖な儀式に使用されてきた煙草、15世紀から近年19世紀前半までは医薬としても使われていた煙草が今、WHO（世界保健機構）は煙草を「有害物質の缶詰」と称し医学的観点から喫煙は「喫煙病（既存症＋喫煙関連疾患）」という全身疾患であると発表しています。つまり喫煙者であること自体「患者」であるという認識なのです。確かに禁煙に対する世界的動きは厳しい物がありますが…患者とまで言われるのかと思うと少し過剰な感じもしますがどうでしょう。

喫煙を原因とする病気による死亡者数は世界で年間推定約500万人以上とも言われており健康に関わることと思えば厳しくもなるのでしょうか。では実際に喫煙により寿命や罹患率とどう関わるのか調べてみました。

4. ガンによる死亡の危険性
(非喫煙者の死亡率を1として)

咽頭ガン	32.5倍
口腔ガン	2.9倍
食道ガン	2.2倍
心臓病	1.7倍
肺ガン	4.5倍
胃ガン	1.5倍
肝臓ガン	1.5倍
膵臓ガン	1.6倍
膀胱ガン	1.6倍

2. 喫煙と寿命

まずは寿命ですが、**1日20本煙草を吸う人では1年で28日、命が短くなる**と言われていています。逆算すると1本当たり5～6分の寿命を削っている計算になり、まさに喫煙は命がけです。

厚生労働省の調べでは40歳喫煙者は非喫煙者に比べ余命で4～5年短命であることも解っています。煙草の煙には有害物質が200種類以上入っています、お金を出して有害物質を吸い込み、自分の寿命を縮めてしまっは「百害あって一利なし」と言わざるを得ないでしょう。



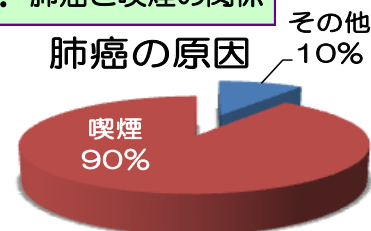
5. 若年女性の喫煙との脳卒中

ガンだけではなく脳卒中も喫煙により用量反応関係があることが最近の研究で解っています。

1日当たりの喫煙量が20本を超える若年女性（15歳から45歳）は非喫煙者と比較し発症率が4.3から9.1倍の高い率となっています。

同じ研究班の調査では喫煙をやめた人は禁煙から2.5年以内にリスクが元の状態に戻る、**また35歳までにたばこをやめた人の余命は非喫煙者と同等に**戻るとも報告しています。

3. 肺癌と喫煙の関係



喫煙により問題となる疾患の一番は肺癌です。上の図は肺癌の原因と喫煙の関係ですが驚くことにどの文献を見ても**80～90%の割合で喫煙が直接肺がんの原因**となっています。紙巻煙草が量産される以前、肺癌はまれにしかない疾患だったそうです。もちろん今からでも禁煙すれば10年後には肺癌のリスクは50%程度低下が期待できます。

6. 老化を早める煙草

煙草に含まれるニコチンの作用には血管の収縮作用があり、一服吸うたびに末梢の血行障害を引き起こします。お肌の手入れの基本は血行を良くすること。喫煙者の肌には細いシワが増えるのは当然で、喫煙が皮膚の老化を早めているわけです。

また喫煙により皮膚のコラーゲンを分解する酵素が活性化されるという報告がありその数値は非喫煙者の数倍とも言われています。みずみずしい肌を保ちたいならニコチンは大敵。禁煙あるのみ…



編集後記

「10年一昔」とよく言いますが、今は10年二昔…三昔も前のような時間の流れ。医療の進歩、経済の変化、身近なことではパソコンなんか5年もすれば一昔前の機種。必死で遅れないようにと足掻いてはいるものの遅れているのか、ついていけて

るのかもよく分からなくなる。当院も開院から10年で大きく変化し、地域での信頼を得てきました。

「ぶれいん」もこの10年で少しずつですが変化しています、これからも病院の今を記事に出来ればと思います。今年もよろしくお祈いします。 吉野